

アスンシオン通信

日付：2024年4月22日 no. 1

発行者：田邊紘起

パラグアイに到着

日本の羽田空港を出発しておよそ34時間で、パラグアイの首都アスンシオンの空港(シルビオ・ペッティロッシ国際空港)に到着しました。飛行機の窓から見える景色は右も左も草原のようで、(ここは空港?)と思いながら座席をたちました。降りたときは蒸し暑さに包まれました。いよいよパラグアイでの生活が始まります。(写真は、空港到着時)



パラグアイという国について

パラグアイは、南アメリカ大陸の中央にあり、海のない内陸国です。面積は日本より少し大きいようですが、人口は日本より少ないようで、首都アスンシオンの人口は50万人（広島市の人口の半分）ほどです。言葉はスペイン語を話します。こちらの4月は秋ですがまだまだ半そでで過ごせます。7～8月が冬本番でコートやマフラーが必要な日もあるそうで、一年中温暖なわけではないようです。水は上下水道完備されていますが、飲み水はミネラルウォーターを買って飲みます。特に生活をする上で困ること（「あれがない、これがない！」といった物不足や「これができない」といった施設面の不具合）はありません（道路事情など衝撃的なこともありました）。次回以降に紹介します）。首都を出ると様子は違うようですが、何とか生活していけそうです。（4月22日：紘起先生より）